平 成 １８ 年 度

ビジネス創造センター 研 究 活 動 報 告 書

平成19年7月

国 立 大 学 法 人
小　樽　商　科　大　学
ビ ジ ネ ス 創 造 セ ン タ ー

発刊によせて

ビジネス創造センター（ＣＢＣ）
センター長・教授　海老名　誠

国立大学法人小樽商科大学ビジネス創造センターの平成 18 年度・活動報告書を刊行するにあたり，一言ご挨拶申し上げます。

ビジネス創造センター（Center for Business Creation, CBC ） は，平成 11 年 4 月に開設され，平成 18 年度末で創立 8 年を経過しました。CBC は，多くの大学では地域共同研究センターと呼ばれる施設です。殆どの地域共同研究センターは，昭和 62 年度以降，理工系国立大学に順次設立されてきました。本学の CBC は，社会科学系の大学として全国で最初に設置されました。

本学は，全国唯一の国立商科系単科大学として，その研究成果を活用した社会貢献・地域貢献活動に努めています。具体的には，CBC を中心とした産学官連携活動を通じて，地域経済の活性化と発展に寄与すべく取り組んでいます。又，CBC とビジネススクールが連携して，実践的且つ想像力に溢れた人材の育成に取り組んでいます。

日本経済は，マクロ的には 5 年半に亘る経済成長を持続し，ミクロ的にも企業業績の顕著な改善が見られる等，順調に推移しています。しかし，北海道の経済は，例えば有効求人倍率が全国平均の半分程度であるなど，依然として低迷しており，特に本学が所在する小樽市の経済は引き続き非常に厳しい状況にあると言わざるを得ません。

この様な環境認識のもと，本学 CBC は地元小樽市をはじめとする北海道の産学官連携事業に積極的に関与して参りました。更に，本学に蓄積された専門的知見を，共同研究や受託研究，研究会活動等を通じて，地域社会や個別課題の解決に結びつけるべく，努力しています。

「大学間の文理融合による連携協定」を締結している北海道公立大学法人　札幌医科大学および北海道東海大学とは，広く社会に貢献すべく，様々な活動を連携して行っています。

本報告書は平成 18 年度の歩みをご紹介したものです。ご一読いただき，皆様のご理解とご鞭撻，ご指導を賜りますれば幸いです。

平成 19 年 7 月

国立大学法人　小樽商科大学
産学官連携ポリシー

小樽商科大学は，全国唯一の国立商科系の単科大学として，自由な学風を尊び，優れた教育と研究並びにそれらの成果を活用した社会貢献を使命とし，地域社会および国際社会の付託に幅広く応える「知の創造」に努め，人類社会の福祉と発展に寄与します。

産学官連携は，大学の知の成果を社会へ還元する重要な活動であり，本学は高い透明性と公平性をもって積極的に取り組みます。

そのために，小樽商科大学は次のことを表明します。

１．実学実践の伝統と理念のもと，本学の知的資源をもって社会の各主体と連帯し，知の成果を社会に還元し，豊かで活力溢れるわが国社会の発展と国際社会への貢献を行います。

２．産学官連携活動を通じて，地域経済の活性化と発展，並びにそれらの担い手となる実践的かつ創造力に溢れた人材育成に取り組みます。

３．文理融合型の社会連携課題に取り組み，新産業の創出と事業のイノベーションに寄与します。

４．産学官連携活動を積極的かつ持続的に推進する組織を設け，能力ある適切な人材を配置し，社会に貢献する知の創造に努めます。

５．産学官連携活動は高い透明性と公平性をもって取組み，十分な説明責任を果たします。

目　次

発刊によせて

国立大学法人小樽商科大学産学官連携ポリシー

Ⅰ．　ビジネス創造センター概要　・・・・・・・・・・・・・・　1
　1.平成18年度の活動：概説　・・・・・・・・・・・・・・　1
　2.主要事業分野　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
　3.組織　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

Ⅱ．　セミナー等開催報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5
　1.　平成18年度小樽商科大学地域活性化セミナー
　　「ダイガクも意外と役に立つ　5
　　～小樽の工芸作家と語る小樽商大の活用法～」　・・
　2.　平成18年度小樽商科大学ビジネス創造センター　7
　　産学連携研究成果報告会　・・

Ⅲ．　受託研究・共同研究・後援会助成金の受入実績一覧　9

Ⅳ．　研究活動の成果と成果の公刊　・・・・・・・・・・・・　13
　1.　登録研究会の活動　・・・・・・・・・・・・・・・・・　13
　2.　Discussion Paper Series　・・・・・・・・・・・・・　25
　3.　研究成果，各種メディアへの寄稿および講演　・・　29
　4.　学外委員等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　31

Ⅴ．　小樽商科大学 学生研究奨励事業
　第1回「学生論文賞」について　・・・・・・・・・・・・　37

Ⅵ．　ビジネス創造センター活動日誌　・・・・・・・・・・・　47

Ⅶ．　ビジネス創造センター関連新聞・雑誌記事　・・・・・　51

Ｉ．　ビジネス創造センター概要

Ｉ－１．平成１８年度の活動：概説

ビジネス創造センター（ＣＢＣ）
センター長　　海老名　誠

本研究活動報告書では，ＣＢＣの平成 18 年度の活動内容実績をご紹介いたしますが，その運営活動にあたったスタッフ教員や学外協力スタッフ等の状況は，「Ｉ―２．主要事業分野」および「Ｉ―３．組織」の通りです。

近年，本邦の産学官連携活動は，政府の「科学技術振興政策」方針に則り，バイオ・ＩＴ・医療技術・創薬・ものづくりなどの分野に特化しつつあると言っても過言ではありません。大学発ベンチャーも，ほぼその様な自然科学系の研究分野から誕生しています。しかし，自然科学系の研究から発芽するシーズを，社会科学系の知見をもって市場に送り出し，収益を生み出すモデルを創り上げることが大切です。自然科学系大学の研究成果と，本学の様な社会科学系大学の研究成果が融合してこそ，新しいビジネスが生み出されると信じます。

本学の様な社会科学系の大学は，マーケティングや市場調査・フィールド調査などを通じ，地元の中小企業や公的部門に対して貢献する事が重要です。平成 18 年度は，この様な問題意識に立って，地元小樽や札幌・北海道との産学官連携事業に積極的に取り組みました。

又，本学の社会貢献活動の一つに，公的機関などが組成する各種委員会などの委員などをお引き受けし，中立的立場から意見具申をする事があります。31 頁以降に本学教員の各種委員会・審議会などへのコミットメントを記載しておりますが，特に本センターに関係する教員は，今後も引き続き積極的に公的活動に関与して参る所存です。

本学が所在する小樽は，年々居住人口の減少が続き，市の財政も大変苦しい状況です。しかし，一方では観光客数も平成 18 年度には 765 万人と，再び増加に転じました。特にアジアを中心とする外国からの観光客の増加が目立ちます。本学は，小樽が国際観光都市として確固たる地位を確立するように，今後とも様々な活動を通じて支援・貢献して参りたいと思います。

Ｉ－2. 主要事業分野

● プロジェクト事業

ビジネスのシーズとニーズを結びつけ，新事業の可能性を切り開きます。国立大学ならではのネットワークをフルに活用し，ビジネス創造に不可欠な学内外の専門家や諸機関を有機的に結び合わせた個別調査研究プロジェクトを立ち上げます。これにより道内，さらには国内外から持ち込まれるさまざまなビジネスシーズをビジネスニーズへと展開させることに貢献します。

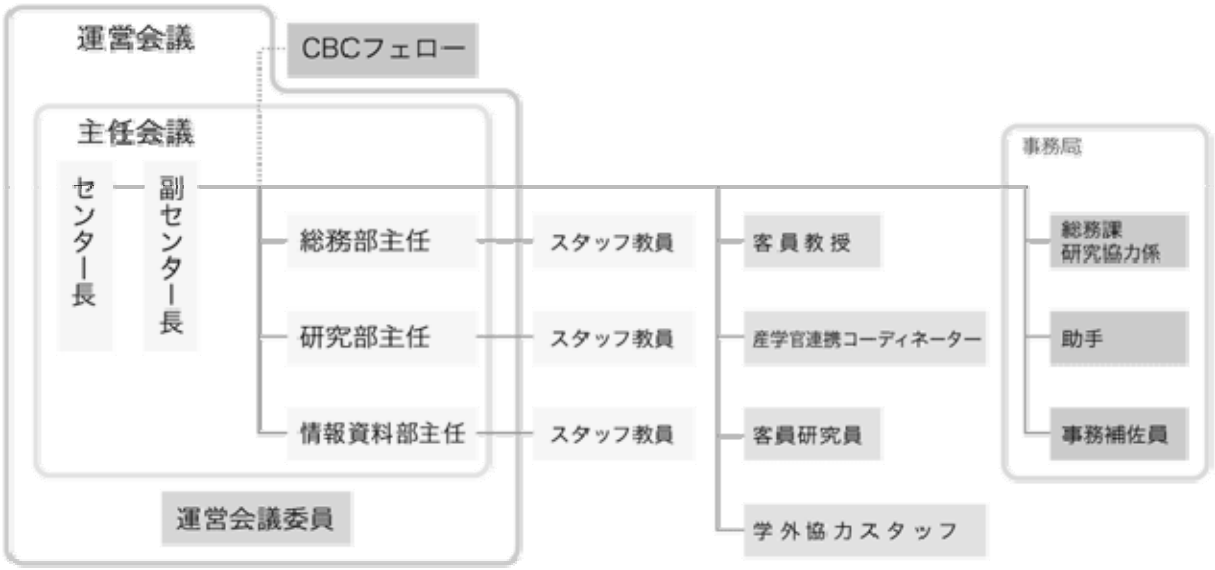
● 情報発信事業

実学実践1世紀のデータベースから，北のビジネスシーンに有益な情報を発信します。建学以来およそ100年にわたり収集してきた北方圏資料に加えて，ビジネス創造に関する各種情報のデータベースを構築し，インターネットや各種セミナー等を通じて積極的に情報公開を図り，地域と大学を緊密に結びつけます。

● 高度職業人育成事業

新時代の多様で高度なビジネスに，必要十分に対応できる人材を育成しています。客員研究員や客員スタッフを，民間企業や自治体などから常勤・非常勤を問わず幅広く受け入れるほか，本学大学院に在籍する多数の現役社会人や留学生に，ＣＢＣの各種活動に参加することでビジネスプロフェッショナルへと向かう実践的環境を提供します。

Ⅰ－3. 組織(平成19年3月31日現在)



センター長・・・・・・　海老名　誠（ビジネス創造センター・教授）
副センター長・・・・・　大津　晶（社会情報学科・助教授）
総務部・・・主任　　和田良介（経済学科・助教授）
　　スタッフ　　中村秀雄（アントレ専攻・教授）
研究部・・・主任　　前田東岐（商学科・助教授）
　　スタッフ　　近藤公彦（アントレ専攻・教授）
　　スタッフ　　松尾　睦（アントレ専攻・助教授）
　　スタッフ　　齋藤一朗（アントレ専攻・助教授）
情報資料部・主任　　奥田和重（アントレ専攻・教授）
　　スタッフ　　平沢尚毅（社会情報学科・助教授）

フェロー・・・・・・・　松本康一郎（アントレ専攻・教授）
　　下川哲央（アントレ専攻・教授）
　　瀬戸　篤（アントレ専攻・教授）

運営委員・・【経済】松家　仁（助教授）　　【商学】高田　聡（教授）
　　【企業法】一原亜貴子（助教授）　　【社会情報】阿部孝太郎（助教授）
　　【一般教育等】片岡正光（教授）　　【言語】吉田直希（助教授）
　　【アントレ専攻】ヨン・ステファンソン（助教授）
客員教授・・田浦一史
文部科学省産学官連携コーディネーター・・・一瀬信敏（客員研究員）
事務局（総務課）・・・高玉博史（研究協力係長），酒井秀人（研究協力係）
助手・・・・・今野茂代
事務補佐員・・村上弘美
＊「アントレ専攻」は「大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻」の略

学外協力スタッフ平成 18 年度登録メンバー

（五十音順，所属・職位は平成 18 年 3 月 31 日現在）

・大石一良氏	あずさ監査法人 札幌事務所 代表社員／公認会計士
・小寺正史氏	弁護士法人小寺・松田法律事務所 所長／弁護士，弁理士
・佐藤　等氏	佐藤等公認会計士事務所 所長／公認会計士
・田村丈生氏	行政書士田村丈生事務所 所長／行政書士
・出口秀樹氏	出口秀樹税理士事務所 所長／税理士
・寺嶋典裕氏	あずさ監査法人 札幌事務所 パートナー／公認会計士
・土井尚人氏	株式会社ヒューマン・キャピタル・マネジメント代表取締役社長
・服部統幾氏	日本政策投資銀行 新産業創造部調査役
・伴　元晴氏	株式会社ニッコー　代表取締役社長
・本間　篤氏	株式会社リクルート　テクノロジーマネジメント室／ライセンシングパートナー
・松田博行氏	千代田アドバンスト・ソリューションズ株式会社　ES 事業本部長
・三浦淳一氏	北海道ベンチャーキャピタル株式会社　取締役
・溝渕新蔵氏	LEC 東京リーガルマインド大学（札幌校）専任教授／アピアプリント株式会社 会長
・守内哲也氏	北海道大学遺伝子病制御研究所　教授／医師，医学博士
・吉本平史氏	独立行政法人中小企業基盤整備機構 新連携支援事務局サブマネージャー／中小企業診断士

学外協力スタッフ－CBC Advisory Staff－とは

ビジネス創造センターの事業領域には，とくにビジネス創造のアドバイスやコーディネート活動に関する学外専門家（弁護士，会計士，弁理士，技術士等）による協力と助言が欠かせません。学外協力スタッフ制度は，公的な場での使用も想定した名称であり，学長から委嘱状を発行して学外からの協力を得るものです。

・登録資格

小樽商科大学卒業生で，ビジネス実務者もしくは経験者。

弁護士，司法書士，公認会計士，税理士，弁理士，行政書士，中小企業診断士，技術士，医師等のいずれかの資格・免許を保有する者。

その他，特別にセンター長，副センター長，および各部主任の推薦を得た者。

・登録手順

本人作成による「経歴書」，および各部主任等からの「学外協力スタッフ登録推薦書」をセンター長に提出。

主任会議および運営委員会で委嘱を審議。

本人の署名捺印を付した誓約書の提出とともに，学長より「年度委嘱状」および「感謝状」を本人に送付。

以後，双方に異議がない限り年度末に更新し，毎年 4 月に「年度委嘱状」を発行。

・謝金ほか

【ボランティア無給】を原則とするが，協力活動に伴って発生する旅費＋日当（国家公務員規程に準ずる）を支給。また，必要に応じて適正と認められる謝金をセンター長の判断により別途支給。

Ⅱ．セミナー等開催報告

Ⅱ－1．平成 18 年度小樽商科大学地域活性化セミナー
「ダイガクも意外と役に立つ～小樽の工芸作家と語る小樽商大の活用法～」

９月 29 日（金）に紀伊國屋書店札幌店のインナーガーデンを会場にして地域活性化セミナーを開催しました。同時に札幌サテライト前では小樽のガラス工芸品と藍織物の特別展示も行いました。事前申込みなしのオープンなセミナーでしたが，当日は 80 名あまりの参加者がありました。

本セミナーの開催は，大学と芸術工房，大学のセンセイと工芸作家，この何のつながりもないように見える不思議な組み合わせから，地域を元気にするしかけが生まれ始めていることが契機になっています。大学が地域のためにできること，市民や地元企業が大学を上手に活用する方法について，小樽を拠点にして世界的に活躍する二人の工芸作家をお招きして，セミナー参加者とともに考えることを目的として開催しました。

参加者からは「小樽商大と小樽の街が，お互いに利益を生みだしていこうとしているのと同じように，今日は，僕と小樽商大のお互いの利益が出てきたんだと思いました。」「少し長すぎるのでは。しかし，学ぶ所がとても多くて楽しかった。」「商大との関係が強すぎたよう。大学は意外に役立つ所ではなく，良く役立つ大学が本物ではないか？少し残念。」といった感想をいただきました。

当日のプログラムは以下のとおりです。

【プログラム】午後 6：00～
主催者挨拶
　山本 眞樹夫（小樽商科大学副学長・地域貢献推進委員会委員長）
第一部　講演
・小樽ガラス工芸
　「OTARU ガラス工芸品の世界ブランド化プロジェクト」
　海老名 誠（小樽商科大学教授・ビジネス創造センター長）
　「小樽ガラス工芸品の魅力」
　安井 顕太（有限会社 ケーズブローイング代表取締役）
・染織造形
　「北海道の染料植物と環境を考えた染織法」
　角 寿子（北の藍工房 主宰）
　片岡 正光（小樽商科大学教授・ビジネス創造センター運営会議委員）

第二部　パネルディスカッション

・「大学は本当に役に立つ？」

　モデレータ 大津 晶（小樽商科大学助教授・ビジネス創造センター副センター長）

　パネリスト 安井 顕太，角 寿子，海老名 誠，片岡 正光

閉会挨拶

　海老名 誠（小樽商科大学教授・ビジネス創造センター長）

（第一部　講演で語る安井氏と
海老名センター長）

（第二部　左から大津副センター長，海老名
センター長，安井氏，角氏，片岡教授）

（ガラス工芸と染織の展示会の様子）

Ⅱ－2. 平成 18 年度小樽商科大学ビジネス創造センター産学連携研究成果報告会

３月２日（金），札幌サテライト大講義室にて恒例の「小樽商科大学ビジネス創造センター（ＣＢＣ）産学連携研究成果報告会」を開催しました。この報告会はセンターの研究成果を広く産学の関係者のみならず一般の方々にご報告することで，北海道経済活性化の役に立つことを目的としています。

会場は約 50 名の参加者でほぼ満席となり，熱気あふれる報告会となりました。

報告の内容は以下のとおりです。

第１報告　「ユーザビリティ活動の発信拠点を目指して」
報告者：葛西　秀昭　氏（北海道日本電気ソフトウエア株式会社・ソフトウエア開発事業部ユーザビィティ推進マネージャー）
平沢　尚毅　　（小樽商科大学社会情報学科・助教授）

第２報告　「小樽観光大学校の設立」
報告者：海老名　誠　　（小樽商科大学ビジネス創造センター長・教授）

第３報告　「企業再生の現状と課題：再生事例からの教訓」
報告者：田浦　一史　　（小樽商科大学ビジネス創造センター北洋銀行企業再生寄附研究部門・客員教授）
籏本　智之　（小樽商科大学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻・助教授／小樽商科大学ビジネス創造センター北洋銀行企業再生寄附研究部門・助教授（併任））

（成果報告会の様子）

Ⅲ. 平成18年度受託研究・委託事業・共同研究・後援会助成金受入実績一覧

Ⅲ－1. 受託研究

委　託　者	研 究 題 目	期 間	研究者所属・職・氏名			研 究 経 費（円）
財団法人北海道科学技術総合振興センター	札幌ITカロッツェリアの創成『知的創造による地域産学官連携強化プログラム「知的クラスター創成事業」』※国からの受託研究（再委託を含む）に該当	18.4.1～19.3.31	社会情報学科	助教授	平沢尚毅	62,007,000
合計　1件						62,007,000

Ⅲ－2. 共同研究

共 同 研 究 先	研 究 題 目	期 間	研究者所属・職・氏名			研 究 経 費（円）
キャリアバンク株式会社	社内人材育成に関する共同研究	18.5.15～19.3.31	ｱﾝﾄﾚ専攻	教授	瀬戸　篤	100,000
株式会社日本ヘルスシステム研究所	医療経営人材育成事業での教育ケース作成プロジェクト	18. 6. 8～19.3.31	商学科	教授	伊藤　一	2,000,000
			ｱﾝﾄﾚ専攻	教授	李　濟民	
			企業法学科	教授	片桐由喜	
			一般教育系	教授	中川喜直	
			商学科	助教授	前田東岐	
			商学科	助教授	乙政佐吉	

北海道日本電気株式会社	札幌ITカロッツェリアの創成 『知的創造による地域産学官連携強化プログラム「知的クラスター創成事業」』 ※同研究題目の受託研究の一環で，共同研究員を受け入れ	18. 4. 1 ～ 19.3.31	社会情報学科	助教授	平澤尚毅	420,000
株式会社データクラフト	札幌ITカロッツェリアの創成 『知的創造による地域産学官連携強化プログラム「知的クラスター創成事業」』 ※同研究題目の受託研究の一環で，共同研究員を受け入れ	18 4. 1 ～ 19.3.31	社会情報学科	助教授	平澤尚毅	420,000
株式会社コネクトテクノロジース	札幌ITカロッツェリアの創成 『知的創造による地域産学官連携強化プログラム「知的クラスター創成事業」』 ※同研究題目の受託研究の一環で，共同研究員を受け入れ	18. 4. 1 ～ 19.3.31	社会情報学科	助教授	平澤尚毅	420,000

株式会社インテリジェント・リンク	札幌ITカロッツェリアの創成 『知的創造による地域産学官連携強化プログラム「知的クラスター創成事業」』 ※同研究題目の受託研究の一環で，共同研究員を受け入れ	18. 4. 1 ～ 19.3.31	社会情報学科	助教授	平澤尚毅	420,000
株式会社メディアネットワークス	札幌ITカロッツェリアの創成 『知的創造による地域産学官連携強化プログラム「知的クラスター創成事業」』 ※同研究題目の受託研究の一環で，共同研究員を受け入れ	18.4.24 ～ 19.3.31	社会情報学科	助教授	平澤尚毅	420,000
有限会社ＩＥＰ	マネジメントイノベーションに関する共同研究	18.6.12 ～ 19.3.31	ｱﾝﾄﾚ専攻	教授	瀬戸　篤	10.000
社団法人全日本病院協会	医療トップマネージメント研修におけるケーススタディーの有用性についての分析	18.7.25 ～ 19.3.31	商学科 ｱﾝﾄﾚ専攻 企業法学科 一般教育系 商学科 商学科	教授 教授 教授 教授 助教授 助教授	伊藤　一 李　濟民 片桐由喜 中川喜直 前田東岐 乙政佐吉	2,000,000
有限会社カラットマリンシステム	小樽運河観光船プロジェクト	18. 9. 4 ～ 19.3.31	ＣＢＣ ｱﾝﾄﾚ専攻 ＣＢＣ	教授 教授 助手	海老名誠 奥田和重 今野茂代	200,000
株式会社岩根研究所	Web-ALVのマーケティング戦略に関する研究	18.12. ～ 19.3.31	ｱﾝﾄﾚ専攻 商学科	教授 教授	近藤公彦 高宮城朝則	300,000

トヨタテクニカルディベロップメント株式会社	車載情報機器の要求仕様定義プロセスと記述方法について	19. 1. ～ 19.3.31	社会情報学科	助教授	平澤尚毅	210,000 （研究料）
合計 12 件						6,920,000

Ⅲ－3. 小樽商科大学後援会助成事業

事業名	金額
ＣＢＣ研究成果報告会	400,000
合計　1 件	400,000

Ⅳ. 研究活動の状況と成果の公刊

Ⅳ－1. 登録研究会の活動

ビジネス創造センターに登録している研究組織の平成 18 年度における活動状況は以下のとおりです（ABC 順，敬称略）。

ビジネス･プラン研究会

1．代表幹事名：松尾　睦（院アントレプレナーシップ専攻・助教授）

2．目的・内容：
ビジネス・アイデアからビジネス・プランを策定・展開することに関する理論的および実践的な手法の開発を行います。

地方政府レベルにおける多文化主義的地域政策研究会

1．代表幹事名：相内俊一（院アントレプレナーシップ専攻・教授）

2．目的・内容：
北海道の市町村における多文化主義的地域政策推進のための諸条件,政策領域の可能性などについて，比較文化的観点から研究し，地方政府の政策形成に寄与することを目的とします。

地方政治システム研究会

1．代表幹事名：相内俊一（院アントレプレナーシップ専攻・教授）

2．目的・内容：
地方行政と地方議会が,住民やＮＰＯとどのように協働して政策形成を行うことができるか,大学・住民(民間)・地方政府を結んで検討します。

地域環境問題研究会

1．代表幹事名：八木宏樹（一般教育等・教授），事務局：山本　充（院アントレプレナーシップ専攻・助教授）

2．目的・内容：
地域社会が抱える環境問題を自然科学・社会科学の両面から分析し，その解決に向けた処方箋や情報を提供することを目的とします。

CS（カスタマー・サティスファクション）研究会

1．代表幹事名： 伊藤　一（商学科・教授）

2．目的・内容：
目的：企業の顧客満足経営を実現することを目的とする研究。
内容：研究対象はサービス産業を中心に調査を展開。これまでの実績としてはホテル業を対象に実施。平成16年は飲食業のCS調査を実施。

土曜研究会

1．代表幹事名：松家　仁（経済学科・助教授）・藤生源子（経済学科・助教授）

2．目的・内容：
経済研究会（土曜研究会）は，昭和３３年（1958年）に発足し，当学内で最も長期的に継続実施されている経済学・社会科学の研究会です。
この研究会の目的は当学における研究活動に対する啓蒙であり，当学内外の研究者の研究報告により，経済学の最新の研究テーマに触れる機会を当学研究者に提供するとともに，テーマを巡る議論を通じて研究会参加者の研究活動を促進することであります。

3．平成18年度活動実績：

開催日	報告者（所属）	報告タイトル
6月30日(金)	寺坂崇宏(小樽商科大学商学部)	A modified Box-Cox transformation in the multivariate ARMA model
6月30日(金)	堀井亮(大阪大学経済学研究科)	Learning, Inflation Cycles, and Depression
7月14日(金)	大森義明(横浜国立大学経済学)	Economic Incentives and Family Formation
7月21日(金)	藤生源子(小樽商科大学商学部)	Optimal Transition Dynamics in the Leontief Two-Sector Growth Model
8月 4日(金)	菅原晃樹(大阪大学経済学研究科・院生)	Intergenerational transfers and fertility: trade-off between human capital and child labour
8月 5日(土)	梶井厚志(京都大学経済研究所)・尾山大輔（一橋大学経済学研究科）	Robustness of Equilibria to Incomplete Information: The Role of the Common Prior Assumption
8月 5日(土)	佐野博之(小樽商科大学商学部)	Imitative Learning in Tullock Contests: Does Overdissipation Prevail in the Long-run?

8月 5日(土)	肥前洋一(北海道大学経済学研究科)	Olympic Athlete Selection
11月17日(金)	岡村誠(広島大学社会科学研究科)	Market Size, Location Choice and Economic Welfare
11月17日(金)	尾山大輔(一橋大学経済学研究科)	History versus Expectations in Economic Geography Reconsidered
12月 1日(金)	中元康裕(大阪大学経済学研究科・院生)	Jealousy, Patience and Underconsumption
12月 8日(金)	川浦昭彦(同志社大学総合政策科学研究科)	Public Choice in a Fledgling Democracy: Evidence from Thailand's Budget Allocation
2月16日(金)	鈴木彩子(大阪大学社会経済研究所)	Bundling Products with Decreasing Value: Evidence from the Cable T.V. Industry
2月23日(金)	柳原光芳(名古屋大学経済学研究科)	教育：完全競争市場下における人的資本蓄積メカニズム
2月28日(水)	秋山英三(筑波大学システム情報工学研究科)	ゲームにおける時間について
3月20日(火)	佐々木勝(大阪大学経済学研究科)	スポーツ活動は昇進に有理か？

4. 平成18年度研究成果（刊行物，HPなど）：
経済研究会活動履歴
http://www.otaru-uc.ac.jp/dept/econ/workshop.html

遠隔教育研究会

1. 奥田和重（院アントレプレナーシップ専攻・教授）

2. 目的・内容：
遠隔教育の経済性評価に関する実証研究を行う。自治体の教育委員会や小・中学校と連携して遠隔教育システムを構築し，その経済性を評価するとともに，教育心理学の視点からシステムの有効性を評価する。

3. 平成 18 年度活動実績：
①日本教育工学会第22回全国大会講演論文集（11月3日）インターネットを活用した「子ども科学教室」の取り組みと評価（学会報告）
②PCカンファレンス全国大会（発表申請済）テレビ会議を利用した総合学習の活性化事例－SEMによる身近な植物観察－（学会報告）
③CIEC会誌：コンピュータ＆エデュケーション　Vol.22（印刷中）　　インターネットを活用した「子ども科学教室」の試みと運営体制－IMによるテレビ会議型授業－（学術論文）

［　講演活動　］
子ども科学教室（2006年９月；2007年２月）　――　講演（遠隔授業）

［　各種メディアへの掲載　］
①新聞：道北日報（2007/02/06）　――　ミクロの世界に驚き
②新聞：北都新聞（2007/02/12）　――　鮮明映像見ながら授業
③新聞：北海道通信（2007/02/09）――　リアル！遠隔授業体験

北海道ヘルスケア・マネジメント研究会

1．代表幹事名：李　濟民（院アントレプレナーシップ専攻・教授）

2．目的・内容：
「医療経営」に関する研究，調査，セミナーを実施

3．平成 18 年度活動実績：
①医療法人カレスグループと共同研究を結び,医療経営の人材育成を目的とするカレス塾(1期生）を開催し，研究会メンバー全員が講義とゼミを担当しました。
②全日本病院協会とも共同研究を結び，第１回「医療機関トップマネジメント研修コース」をコーディネートし，研究会のメンバーの伊藤，李が第１単位と第単位の講義を担当しました。
③札幌医科大学にて，大学院の講義【看護管理学特論】を研究会のメンバー全員が各１時限ずつ講義しました。
④月１回程度のペースで研究会のメンバーと外部の専門家（医師，事務長，医大教授など）を交えた研究会を開催しました。

５．平成 18 年度研究成果（刊行物，HP など）：
「医療機関の再生事業－カレス札幌のケース」を執筆など（李　濟民）

北東アジアーサハリン研究会

1．代表幹事名：李　濟民（院アントレプレナーシップ専攻・教授）

2．目的・内容：
経済活性化が望まれている北海道と大規模石油･ガス開発プロジェクトを実現しつつあるサハリンとの関係を中心軸にとり,それを取り囲む北東アジア地域の様々な問題群を検討します。

法制研究会

1．代表幹事名：玉井利幸（企業法学科・助教授）　齋藤由起（企業法学科・助教授）

2．目的・内容：

広く法律学一般に関する学術の進歩を図るため，これに必要な調査研究発表を行うとともに，教官相互の研鑽と大学院教育の向上に寄与すること。

内容：小樽商科大学商学部企業法学科所属の教官および院生の研究発表。1998年度以降は，大学院科目「法学総合研究Ａ」「法学総合研究Ｂ」として，大学院生の教育の場ともなっています。

3．平成18年度活動実績：7回開催。

月日（回（通算））	報告者	報告題目
5月31日（水）（1(89)）	齋藤由起（小樽商科大学助教授）	（判例研究）「債務者が利息制限法所定の制限を超える約定利息の支払を遅滞したときには当然に期限の利益を喪失する旨の特約の下での制限超過部分の支払の任意性を否定した事例」
6月28日（水）（2(90)）	河野憲一郎（小樽商科大学助教授）	（判例研究）「不作為を目的とする債務の強制執行として間接強制決定をするために債権者において債務者の不作為義務違反の事実を立証することの要否」
10月25日（水）（3(91)）	遠山純弘（小樽商科大学助教授）	不履行と契約の解除
11月29日（水）（4(92)）	姜 連甲（小樽商科大学大学院商学研究科修士課程）	（修士論文中間報告）「中国における行政独占の問題について」
12月20日（水）（5(93)）	道野真弘（小樽商科大学助教授）	（判例研究）「取締役の第三者に対する責任－任務懈怠・経営一任型－」
1月17日（水）（6((94)）	松岡清華（小樽商科大学大学院商学研究科修士課程）	独占禁止法２５条の存在意義について－独占禁止法違反における損害賠償請求－
2月20日（火）（7(95)）	今本啓介（小樽商科大学助教授）	（判例研究）「相続財産である土地の評価について，被告の異議決定の際に用いられた鑑定の結果よりも裁判所による鑑定の結果の方が合理的であるから，被告の更正処分等の一部が違法であると判断された事例」

4．平成18年度研究成果（刊行物，HPなど）：

平成18年度に開催された法制研究会の各報告題目などが，
http://www.otaru-uc.ac.jp/dept/law/housei/index.html で公開されています。

ICT 研究会

1. 代表幹事名：奥田和重（院アントレプレナーシップ専攻・教授）

2. 目的・内容：
「北海道（地域）あるいは企業の情報化に関わる課題の解決を図りながらＩＣＴ（情報通信技術：Information-Communication Technology）による社会・経済的価値の創造を考える」ことを目的としています。本研究会の活動は，具体的には以下の課題を中心に議論を行い解決の可能性を検討することです。
   1. 北海道（地域）の情報インフラの整備と地域経済の活性化
   2. 企業とマーケット（顧客），企業と企業，企業内における情報化
   3. 情報教育と人材育成

会計研究会

1. 代表幹事名：坂柳　明（商学科・助教授）

2. 目的・内容：
「社会に開かれた会計」を目指し，その時点で社会において問題になっているテーマに関して，知識を深めることを目的としています。平成18年度は，前年度に引き続き，事業再生に向けて，会計の果たす役割について，研究しました。

3. 平成18年度活動実績：
今年度は，昨年度に引き続き，輪読文献として S. C. Gilson, Creating Value through Corporate Restructuring: Case Studies in Bankruptcies, buyouts, and Breakups, John Wiley & Sons, Inc., 2001 を取り上げ，以下のような日程で報告が行われました。

開催日	担当者	担当箇所
5月13日(土)	渡辺和夫（本学）	第7章　ハマナ社
6月10日(土)	籏本智之（本学）	第6章　財務的困窮状態にある投資：市場サーベイ
7月 8日(土)	石坂信一郎(専修大学北海道短期大学)	第9章 ドナルド・ソルター通信社
7月 8日(土)	松本康一郎（本学）	第12章　FAG Kugelfischer
10月 7日(土)	檜山　純(本学非常勤講師)	第13章 チェース・マンハッタン・コーポレーション
10月 7日(土)	邵　藍蘭(札幌学院大学)	第8章　USX
11月 4日(土)	片山郁雄（函館大学）	第5章 アルファテック・エレクトロニクス
12月23日(土)	野口昌良(首都大学東京)	第11章 スコット・ペーパー社

12月23日(土)	籏本智之（本学）	補論AおよびB

4．平成18年度研究成果（刊行物，HPなど）：

本学籏本智之助教授が，2007 年 3 月 2 日に札幌サテライトにて開催された，小樽商科大学ビジネス創造センター主催の産学連携研究成果報告会で，成果発表を行いました。

経営研究会

1．代表幹事名：高田聡（商学科・教授）

2．目的・内容：

経営学に関する理論及び実証研究を中心に研究報告会を開催。商学科経営学講座のスタッフが中心となる活動ですが，より広く報告・参加者を募り，知識の幅広い交流も目指しています。

3．平成18年度活動実績：4回開催

日時	報告者	論題
7月 3日(月) 午後4時	松尾　睦	専門職の経験学習プロセス：看護師の経験と信念
7月25日(火) 午後2時～	田中幹大	戦後大阪における量産機械工業の下請け関係の形成と中小機械金属工業の対応
9月25日(月) 午後2時～	高田　聡	ＧＭ社における経営労務戦略の推移，1910年代―1930年代
3月30日(金) 午後2時～	田中幹大	中小企業史研究における問屋制評価をめぐって

＊会場は　研究棟B会議室

国際取引契約研究会

1．代表幹事名：中村秀雄（院アントレプレナーシップ専攻・教授）

2．目的・内容：

「国際取引契約文書をどのように作成すればよいのか，相手方から送られてきた契約書案をどのような視点から検討すればよいのか，どのようにカウンタードラフトを作ったらよいのかを研究するほか，国際取引契約書作成に関するノウハウの蓄積，技術の向上を目指す。国際取引，契約書をどのように立案・構成すればよいのかも研究する」ことを目的に設立されました。

研究会では会員から提出を受けた契約書を使うことを基本としていますが，18 年度は基本を学ぶために，主催者側で用意した英文代理店契約の研究を行いました。

3．平成18年度活動実績：

18年度は札幌で8回開催し，のべ72人(1回平均9人)の参加者がありました。

4. 平成18年度研究成果（刊行物，HPなど）：
　研究の対象とした資料を除いて，研究成果物として形にしたものは特にありません。HP は今のところ開設予定はありません。

マーケティング研究会

1. 代表幹事名：プラート・カロラス（商学科・助教授）

2. 目的・内容：
　本研究会の目的はマーケティング分野における最新研究に関する情報交換及び研究者交流の場を設けることです。本研究会におきましては，マーケティング関連の学内及び学外研究者による最新研究の報告，議論を行います。

小樽運河観光船プロジェクト研究会

1. 代表幹事名：海老名　誠（ビジネス創造センター長・教授）

2. 目的・内容：
　小樽運河は小樽のもっとも重要な観光資源であると同時に，小樽市民にとっての宝とも言うべき特別な資産です。この運河を小樽の産官学で守り，同運河の更なる活性化を目指し，同運河に運河船（Canal Boat）を運航するプロジェクトを立ち上げる為，共同研究を行います。
特色：小樽運河の利用・活性化を巡っては，過去数度に亘り企画が取り沙汰され，その度に頓挫して来ました。その理由は，企画主が本州資本であったり，商業主義利潤追求を目的としたからです。本プロジェクトでは，小樽資本による，小樽のための，小樽の総力戦（オール小樽）で研究する点に特色があります。

3. 平成 18 年度活動実績：
　オール小樽体制確立のために共同研究メンバーが関係機関，市民団体の関係者（小樽市経済部，同港湾部，小樽土木現業所，小樽観光協会，小樽観光誘致促進協議会，小樽再生フォーラム等）を訪問し，プロジェクトについての説明，ヒヤリングを行いました。その件数は 50 件近くとなりました。
　この説明によって一定の理解は得られましたが，さらに広くプロジェクトの意義と概要を周知するため，説明用ＤＶＤの作成を計画しました。ＤＶＤは 19 年度に完成の予定です。

4. 平成 18 年度研究成果（刊行物，HP など）：
『小樽Ｃａｎａｌ　Ｂｏａｔプロジェクト演習実施報告書－オール小樽体制の実現を目指して』（八谷俊雄）

進化経済学ワークショップ

1．代表幹事名：江頭　進（経済学科・助教授）

2．目的・内容：
ミクロ・マクロループ，制度，知識などをキーワードに，経済社会の変容を進化論的社会科学の視点から分析・説明する。

3．平成18年度活動実績：

開催日	
5月 3日	進化経済学ワークショップ（於：京都大学）
8月21日	シリーズ進化経済学編集会議（於：小樽商大）
12月 5日	シリーズ進化経済学編集会議（於：小樽商大）
3月22日	シリーズ進化経済学編集会議（於：京都大学）

4.平成18年度研究成果等
進化経済学ワークショップウェッブサイト
website http://room409-1.ih.otaru-uc.ac.jp/daiyabo/

商学研究会

1．代表幹事名：渡辺和夫（商学科・教授）

2．目的・内容：
商学科所属教官全員がメンバー。商学科教官および学外の研究者による研究発表ならびに意見交換等を行う。各教官の研究内容について，これを専門分野にとらわれることなく，多角的な視点から議論することを特色とします。

3．平成18年度活動実績：

開催日	報告者	報告
5月7日（土）	白　貞壬助教授	小売国際化における業態革新のメカニズムについて
	乙政佐吉助教授	バランス・スコアカード研究の方向性

SBM研究会　＜スモール･ビジネス･マーケティング研究会＞

1．代表幹事名：下川　哲央（大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻・教授／ビジネス創造センター・フェロー）

2．目的・内容：
主として札樽圏の中小企業経営者・幹部等を対象に，ビジネス発展に不可欠でありながら地

域企業の最大の弱点でもある戦略的思考，マーケティング・スキルについて，そのマインド醸成や能力向上への寄与を目的とします。啓発的セミナー，研究会メンバーのケースによるワークショップ等を通して具体的な課題発見やその解決に資する知見を追求します。

3. 平成18年度活動実績：

開催日付	演者	テーマ（区分／開催場所）
4 月 12 日（水）	小川　正博氏（札幌大学経営学部）	顧客価値の創造による事業革新（ビジネスソリューション･セミナー／かでる 2･7）
5 月 26 日（金）	①下川　哲央（小樽商科大学） ②大橋　一之氏（北海道経済産業局地域経済部新規事業開発課係長）	格差社会とこれからの企業戦略（ビジネス創造戦略セミナー／小樽商科大学札幌サテライト）
7 月 7 日（金）	ケース提供者：木嶋　亮二氏（総合商研㈱取締役生産本部長）	顧客の本質的なニーズを解決する印刷ビジネスの創造（ワークショップ／小樽商科大学札幌サテライト）
9 月 15 日（金）	①伊藤直哉氏（北海道大学院広報メディア研究科） ②岩泉匡洋氏（㈱リクルート北海道じゃらん代表取締役） ③平林和博氏（㈱JTB 北海道事業開発室長） ④本間盛行氏（㈱きたひろばソリューションマネージャー）	世界とビジネスを激変させる Web 戦略革命 ― 北海道はどのように革命をサバイバルするのか（Web ビジネス新戦略セミナー／かでる 2・7）
10 月 26 日（木）	①大内　東氏（北海道大学院情報科学研究科） ②黒木　一浩氏（北海道経済部観光のくにづくり推進局主幹） ③染井順一郎氏（北海道開発局開発調査課企画官） ④太田　克美氏（㈱はまなすインフォメーション　GIS 担当）	地域情報の発信と北海道の観光振興戦略」（観光情報戦略セミナー／かでる 2･7）
10 月 31 日（火）	ケース提供者：徳満　耕史氏（㈲フルーディァ代表取締役）	道産品小売業の課題と挑戦（ワークショップ／かでる 2･7）
11 月 21 日（火）	江村　林香氏（㈱エアトランセ代表取締役）	にわとりのあたま*まずは小さな世界で一番になる（航空ビジネス･セミナー／かでる 2･7）
1 月 20 日（土）	ケース提供･演者：張　相律氏（㈱北海道チャイナワーク代表取締役）	中国観光ベンチャー・北海道チャイナワークのケース（ビジネス・ワークショップ／小樽商科大学札幌サテライト）
3 月 8 日（木）	①下川　哲央（小樽商科大学） ②藤原　達也氏（北海道産学官研究フォーラム事務局長）	3 つのワークショップの総括とマーケティング・レビュー（フォローアップ研修／かでる 2・7）
3 月 22 日（木）	①勝野　直義氏（㈱ワイズノット北海道ブロック長） ②菅原　昭氏（北海道 CMC㈱東京支店執行役員） ③塩谷　彰浩氏（財団法人札幌産	オープンソースによるビジネスの現状と展望（オープンソースとオフショア・ビジネスに関するセミナー／かでる 2・7）

	業振興財団･客員研究員）	

4.平成18年度研究成果等

刊行物はありません。研究会活動のHPは以下を参照願います。

http://www.kirari.com/sbm/

Ⅳ－2. Discussion Paper Series

平成 18 年度に発行したディスカッション・ペーパーは以下の 7 編です。

＊概要のＷｅｂでの公開を希望しない執筆者の概要は削除されています。

No.104　高田　聡：米国地域経営史における多文化主義的発展－1930年代ミシガン州フリントにおけるアフリカ系コミュニティの起業基盤を中心に－

No.105　山本　充：環境便益を反映させた環境指標の開発 Developing an environmental indicator including environmental benefits

概要：経済活動により発生する環境負荷と，農林業などの多面的機能に代表される汚染物質の吸収機能という環境便益を，エコロジカル・フットプリントの考え方により面積換算し，これらの比に基づき，マクロ・メゾ環境会計における会計単位の環境改善の度合い，持続可能な方向性を表現できる環境指標の開発を試みる。さらに，この指標を使用した GDP などの経済駆動力との関係を示すデカプリング指標の改良を試みている。

No.106 Mutsuhiro Kato：A Critical Investigation of Long-run Properties of Endogenous

概要：本論文は，内生的成長モデルの長期的性質を批判的に調べる。成長モデルは次の条件を備えている場合，望ましい長期的性質を持つと言われる。

１．　持続成長を伴う一意的定常状態が存在する。

２．　定常状態成長率の表現式が，パラメーター値の変化に対して頑健である。

外生的成長モデルはこれらの望ましい長期的性質を確かに持つのに対して，内生的成長モデルはこれらの性質を全く持たないことが示される。この結果は，新しい成長理論に対するソローの懐疑論の論拠を補強すると同時に，ソロー・モデルは依然として経済成長の標準モデルであることを示している。

No.107　Mutsuhiro Kato：What is National Income in Jones' Model of Growth?：An Expository Annotation

概要：本コメント・ノートは，ジョーンズの 1995 年発表の内生的研究開発に基づく成長モデルにおける国民所得勘定を明らかにするものである。とりわけ，中間財部門の導入が国民所得に与える影響を，付加価値と投資財価格の面から調べる。

No.108　Mutsuhiro Kato：A Further Analysis of the Consumer Behavior in Jones' R&D-Based Model of Economic Growth

概要：このノートは，C. I. ジョーンズの semi-endogenous growth model（１９９５，JPE）における代表的消費者行動モデルを調べ直し，看過されていた二つの最適条件を導く。その第１は，見落とされていたオイラー方程式から導かれる短期最適条件（”家計消費＝賃金率”）であり，第２は，動学的最適化が達成されるための選好パラメーター条件（”相対的危険回避度の逆数＞１”）である。この第２の条件は，位相図分析から導かれる。更にこの位相図分析から，家計消費の最適成長率についての新しい表現式が得られる。最後にこの成長率を使って，最適化が達成されたときの効用積分が，無限大に発散することを示す。

No.109　松尾　睦；正岡経子；吉田真奈；丸山知子；荒木奈緒美：看護師の経験学習プロセス

No.110　Iida Hiroshi：Comments on knapsack problems with a penalty

Summary：The classical binary knapsack problem has numerous generalisations in relation to not only a capacity constraint but also an objective function.　In 2006, two knapsack problems have coincidentally been proposed, both of which have an extension of the objective function paying the penalty.　This article gives some comments on the two problems.

Ⅳ－3. 研究成果，各種メディアへの寄稿および講演

氏　名	主催・メディア名等	日　付	テーマ・タイトル
海老名誠	週刊世界と日本	第1740号（12月11日）	OTARUガラスのブランド化へ：この夏、北の国が華やいだ（北海道メール）
	北海道新聞	12月15日（朝）小樽・後志版	台湾の小樽ガラス展　2年目の成果（寄稿）
	小樽ロータリークラブ例会	2月27日	小樽観光大学校（講演）
花輪啓一	西日本新聞	5月15日	研究最前線インタビュー
	北海道新聞	5月23日（全道版生活面）	子供の熱中症ご用心－道内　本州より低温でも発生－（取材）
	テレビ東京	7月10日	熱中症の応急手当は？（放送番組：主治医が見つかる診療所・・放映）
	ジュニアスポーツセミナー	9月　2日	スポーツ活動中の熱中症予防（講演・北海道江別市）
	ジュニアスポーツセミナー	3月10日	活動中の水分補給と実際（講演・シンポジウム福島県喜多方市）
近藤公彦	HoPE（北海道中小企業家同友会産学連携研究会）	10月11日	売れる商品をいかに開発するか～産学連携のあり方～（パネリスト）
	ナレッジプラザ　ビジネス塾	10月16日	マーケットを　どう捉え、どうアプローチするか（講演）
	紋別信金経営塾	12月18日	経営におけるマーケティングの役割と課題（講演）
	日経ブランディング	2006年冬号	ケロッグ・アジアン・ビジネス・コンファレンス（パネルディスカッション司会）
	おびしん地域経営塾	1月24日	マーケティング－売れる仕組みを作る－（講演）
	調査レポート（北洋銀行）	2月号	米国ビジネススクール事情（１）－ビジネススクール・ランキングから－（寄稿）
	調査レポート（北洋銀行）	3月号	米国ビジネススクール事情（２）－ノースウェスタン大学ケロッグスクールから－（寄稿）
中川喜直	**クローズアップ現代（ＮＨＫ）**	5月25日	隠れ糖尿病（国際放送（ワールド）にて8月8日、9日に再放送有り）
	北海道新聞	12月12日（朝）	ストックを使い歩こう
	朝日新聞	1月21日（日曜版）	ストックで歩く
齋藤由起	日本私法学会・第69回大会	10月 8日	近親者保証の実質的機能と保証人の保護（報告）
	商学討究	第57巻第2･3合併号 12月	債務者が利息制限法所定の制限を超える約定利息の支払を遅滞したときには当然に期限の利益を喪失する旨の特約の下での支払の任意性の有無（論文）
	札幌弁護士会司法制度調査委員会	1月29日	近親者保証について（講演）
柴山千里	Asian Pacific Trade Seminars 神戸大会	7月15日	Dumping by firms that produce core goods and incompatible consumables（早稲田大学政治経済学部石井安憲教授との共同論文）（発表）

下川哲央	旭川信用金庫「志有塾」	4 月 21 日	これからの経営戦略論　ー　新たな経営能力構築競争力を勝ち抜くために（講演）
	月刊・金融ジャーナル	6 月号（第 47 巻第 6 号）	6月号総特集（支援から自立）「新・地域再生論ー　分権から地域経済革命へ（基調執筆）
	民主党「翔政経文化研究会」地域セミナー	7 月 20 日	格差社会の考え方と北海道のあり方（講演）

＊アンケート回答分のみ掲載

学外委員等

各種委員会・審議会

氏 名	主 催	名　称	役　職	期 間
秋山義昭	北海道開発局	小樽開発建設部総合評価審査委員会	委員	H18.07.01- H19.03.31
	北海道開発局	小樽開発建設部入札監視委員会	委員	H17.04.01- H19.03.31
	北海道	北海道科学技術審議会	委員	H17.04.01- H19.11.26
	小樽市	市立小樽病院統合新築工事基本設計業務に係る公募型プロポーザル方式選定委員会	委員	H19.02.01- H19.03.31
	小樽市教育委員会	小樽市立学校の規模･配置の在り方検討委員会	委員	H18.07.01- H19.09.30
	国立大学協会	国際交流委員会	委員	H18.04.01- H20.03.31
	神戸大学	神戸大学大学院経営研究科外部評価委員会	委員	H19.01.01- H19.03.31
	国際連合大学	国際大学グローバル・セミナー第2回北海道セッション諮問委員会	委員	H14.05.01- H19.03.31
	中小企業基盤整備機構北海道支部	中小企業大学校旭川校	運営委員	H19.02.01- H19.03.31
	小樽商工会議所		顧問	H14.05.08- H18.10.31
	小樽観光大学校		顧問	H18.05.16-
	北海道･マサチューセッツ協会		理事	H14.05.14- H20.03.31
	北海道ユネスコ連絡協議会		顧問	H17.05.20- H20.05.31
	北海道生産性本部		顧問	H16.04.01- H20.05.31
	北海道科学技術総合振興センター		評議員	H17.07.01- H19.06.30
	伊藤整文学賞の会		役員	H17.09.10- H19.09.09
相内俊一	北海道	北海道労働審議会	委員	H17.03.07- H19.03.06
	ニセコ町	情報公開審査会並びに個人情報保護審査会	委員	H17.12.01- H20.11.30
	北海道ＩＴ推進協会	プロジェクト研究会	座長	H18.8.21- H19.2.28
浅沼義英	小樽市	小樽市地域密着型サービス運営委員会	委員	H18.05.02- H21.03.31
穴沢　眞	日本貿易振興機構アジア経済研究所		委員	H14.05.01- H19.03.31
	北海道生産性本部		理事	H14.07.01- H20.05.31

石黒匡人	北海道	北海道大規模小売店舗立地審議会	特別委員	H14.06.01- H20.05.31
	北海道	北海道地方労働委員会	公益委員	H16.11.01- H20.11.30
	小樽市	小樽市個人情報保護審議会	委員	H16.12.01- H19.03.31
	小樽市	小樽市情報公開審査会	委員	H14.06.01- H20.07.11
	石狩市	市民参加制度調査審議会	委員	H15.12.15- H20.02.28
	北しりべし廃棄物処理広域連合	北しりべし廃棄物処理広域連合情報公開審査委員会	委員	H16.09.06- H22.03.31
伊藤　一	小樽市	街なか活性化計画推進協議会	委員	H15.09.01- H19.03.31
	小樽市中心市街地活性化協議会	小樽市中心市街地活性化協議会	委員	H19.02.01- H21.03.31
海老名 誠	北海道経済産業局	提案公募型技術開発事業最終評価委員会	委員	H17.11.05- H19.03.31
	北海道経済産業局	提案公募型技術開発事業外部審査委員会	委員	H17.06.22- H19.03.31
	北海道	北海道労働審議会	特別委員	H17.06.17- H19.06.16
	北海道科学技術総合振興センター		企画委員	H18.06.21- H19.06.30
	北海道科学技術総合振興センター	研究開発助成事業審査委員会	委員	H17.06.01- H19.03.31
	東京商工会議所	国際経済委員会	委員	H17.11.01- H18.10.31
	札幌商工会議所	北のブランド選考委員会	副委員長	H18.12.01- H19.01.31
	さっぽろ産業振興財団	札幌起業家総合支援協議会	委員	H18.04.20- H19.03.31
	小樽商工会議所	ＪＡＰＡＮブランド育成支援事業プロジェクト実行委員会	副委員長	H17.07.08- H19.02.28
	小樽観光大学校	運営委員会	委員	H18.05.16-
	小樽まち育て運営協議会	小樽まち育て運営協議会	委員	H18.06.28- H19.03.31
	センチュリー・プラザ・オタル	センチュリー・プラザ・オタル	オブザーバー	H18.04.13- H19.03.31
	東アジア経済研究会	東アジア経済研究会	オブザーバー	H18.04.13- H19.03.31
	苫小牧工業高等専門学校	平成１７年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代ＧＰ）評価検討委員会	委員	H18.02.20- H19.03.31

大島　稔	北方文化振興協会		評議員	H16.05.31- H18.05.30
	アイヌ文化振興・研究推進機構	助成事業審査委員会	委員	H16.07.01- H19.03.31
	アイヌ文化振興・研究推進機構	事業検討委員会	委員	H16.06.23- H19.03.31
大矢繁夫	北海道	建設業審議会	委員	H15.12.17- H20.01.16
	小樽市	小樽市特別職報酬等審議会	委員	H14.08.15- H20.09.09
岡部善平	北海道大学	北海道大学高等教育機能開発総合センター	研究員	H18.09.01- H19.03.31
荻野富士夫	小樽市教育委員会	文化財審議会	委員	H15.11.01- H19.10.31
	小樽市教育委員会	小樽市博物館協議会	委員	H16.08.02- H20.08.01
小田福男	北海道労働局	北海道地方最低賃金審議会	委員	H17.05.01- H19.04.30
	北海道経済産業局	ロシア極東ビジネス交流推進委員会	委員	H18.10.11- H19.03.31
片岡正光	小樽市	小樽市公害対策審議会	委員	H16.02.22- H20.02.21
片桐由喜	北海道	北海道消費生活審議会	委員	H17.09.01- H19.09.29
	中央労働委員会		地方調整委員	H16.08.01- H20.09.30
	小樽市	小樽市福祉有償運送運営協議会	委員	H18.07.31- H19.03.31
	小樽市	男女平等参画推進市民会議	委員	H15.08.01- H19.08.31
	北海道社会保険	北海道地方社会保険医療協議会	委員	H17.01.21- H21.02.21
君羅久則	北海道教育委員会	北海道・札幌市公立学校教員採用に関する協議会	委員	H16.04.01- H19.03.31
齋藤一朗	北海道	商工業振興審議会	委員	H15.07.10- H19.07.09
	小樽市	地域経済活性化会議	委員	H15.06.06- H18.05.31
	信金中央金庫総合研究所	地域と金融に関するワーキンググループ	委員	H18.07.13- H19.03.31
	北海道未来総合研究所		客員研究員	H14.04.01- H20.03.31
佐藤　剛	北海道大学	北海道大学情報基盤センター	プログラム指導員	H18.04.01- H19.03.31

下川哲央	札幌市	北海道札幌新定時制高等学校及び中央幼稚園整備等事業者選定委員会	委員	H18.05.01- H19.04.30
	北海道科学技術総合振興センター		企画委員	H15.07.01- H19.06.30
	北海道運輸交通研究センター		理事	H16.08.01- H20.07.31
	北海道科学技術総合振興センター	知的クラスター本部	本部長	H16.04.01- H19.03.31
	北海道私立幼稚園協会	退職金基金運用協議会	委員	H14.07.15- H19.03.31
瀬戸　篤	北海道開発局	北の住まいとまちづくり委員会	委員	H19.02.19- H20.03.31
	北海道総合通信局	情報通信を活用した北海道における農産物の高付加価値化に関する調査検討会	委員	H18.06.22- H19.03.30
	北海道	「フロンティアベンチャー育成プロジェクトwithマイクロソフト」支援事業審査委員会	委員	H16.09.01- H19.03.31
	新エネルギー・産業技術総合開発機構		ＮＥＤＯ技術委員	H18.05.01- H20.03.31
	情報･システム研究機構	利益相反委員会	委員	H18.04.01- H20.03.31
	読書会		アカデミックアドバイザー	H18.11.16- H20.11.15
	価値総合研究所	平成１８年度大学発ベンチャーに関する基礎調査研究会	委員	H18.11.06- H19.03.31
	アグリバイオインダストリ		経営アドバイザー	H18.04.07- H19.03.31
	ネクストハンズオンパートナーズ		アドバイザー	H17.04.01- H19.03.31
多木誠一郎	余市町	情報公開審査会／個人情報保護審査会	委員	H16.04.01- H19.06.30
	全国農業協同組合中央会	ガバナンス研究会	委員	H18.08.25- H18.12.31
中村隆志	恵佑会札幌病院	治験審査委員会	委員	H14.07.12- H20.07.11
中村秀雄	北海道運輸局	北海道船員地方労働委員会最低賃金専門部会	委員	H16.09.06- H19.03.31
	札幌医科大学		アドバイザー	H18.12.08- H19.12.07
	帝北自動車		アドバイザー	H18.11.07- H19.03.31
	北海道経済国際化推進会議		北海道貿易コンサルタント	H16.05.01- H19.03.31
中村　史	小樽市教育委員会	小樽文学館審議会	委員	H15.11.01- H18.10.31

平沢尚毅	北海道科学技術総合振興センター	平成１８年度知的創成事業（札幌地区）研究推進ワーキンググループ	委員	H18.05.02- H19.03.31
	ＨＢＡ		技術指導	H18.10.24- H18.10.25
	富士写真フイルム		技術指導	H18.07.13- H19.01.12
	トヨタテクニカルディベロップメント		技術指導	H18.09.01- H19.03.31
船津秀樹	日本港湾協会	苫小牧港港湾整備構想検討委員会	委員	H16.09.01- H19.03.31
寶福則子	小樽市	小樽市青少年問題協議会	委員	H17.11.01- H19.10.31
前田東岐	北海道	国土利用計画審議会	委員	H17.02.01- H20.01.31
	北海道	北海道政策評価委員会	委員	H16.05.17- H20.05.21
松本康一郎	経済産業省	地域技術開発関連事業に関する事前評価委員会	委員	H16.05.15- H18.05.14
	北海道財務局	財政行政モニター会議	委員	H16.04.01- H20.03.31
	北海道労働局	若年者雇用問題検討会議	委員	H15.04.17- H19.07.31
	北海道	北海道エクセレントカンパニー表彰審査委員会	委員長	H17.09.12- H19.03.31
	小樽市	地域経済活性化会議	委員	H15.06.06- H18.05.31
	雇用･能力開発機構北海道センター	人材育成北海道地域協議会	委員	H16.03.01- H19.03.31
	雇用･能力開発機構北海道センター	運営協議会	委員	H15.05.15- H20.03.31
	北海道科学技術総合振興センター	北海道情報産業クラスター･フォーラム技術・事業性	アドバイス委員	H16.06.01- H19.03.31
	北海道科学技術総合振興センター	北海道情報産業クラスター･フォーラム運営会議	委員	H16.04.01- H19.03.31
	北海道科学技術総合振興センター	知的クラスター創成事業（札幌地区）	アドバイザー	H16.05.01- H19.03.31
	北海道中小企業総合支援センター	事業可能性評価委員会	委員	H16.04.23- H19.03.31
	小樽観光大学校	運営委員会	委員	H18.05.16- H　.　.
	札幌商工会議所	北の起業家表彰選考委員会	委員長	H18.07.13- H19.03.31
	北海道ＩＴ推進協会	プロジェクト研究会	座長	H18.08.01- H19.02.28
	アグリバイオインダストリ		経営アドバイザー	H18.04.01- H19.03.31
	札幌ビズカフェ		アドバイザリーボード	H17.08.01- H19.03.31

本久洋一	北海道		特別労働相談員	H16.04.01- H19.03.31
	北海道	北海道地方労働委員会	公益委員	H16.11.01- H20.11.30
八木宏樹	北海道	泊発電所環境保全監視協議会	委員	H14.06.16- H18.06.15
	後志支庁	日本海南部海域多元的資源型漁業推進協議会	委員	H16.04.01- H19.03.31
	後志支庁	石狩・後志地区海面利用協議会	委員	H16.12.01- H19.03.31
	後志支庁	石狩・後志地区漁港管理委員会	委員	H17.03.01- H20.03.31
	北海道環境財団		評議員	H15.04.01- H19.03.31
山本賢司	小樽市	小樽市将来ビジョン懇談会	委員	H17.09.01- H19.03.31
山本眞樹夫	国立大学協会	事業実施委員会	委員	H16.04.13- H18.06.30
山本　充	北海道	泊発電所環境保全監視協議会	委員	H18.06.16- H20.06.15
	北海道	北海道ゼロ・エミ大賞選考委員会	委員	H17.12.01- H19.11.30
	小樽市	小樽市都市計画審議会	委員	H16.04.01- H20.03.31
	北海道未来総合研究所	「札幌市生活環境の確保に関する条例」業種・業態別環境保全行動マニュアル策定検討会	委員	H16.09.01- H19.03.31
李　濟民	北海道	北海道総合開発委員会	臨時委員	H18.04.07-
	小樽市	小樽市地方港湾審議会	委員	H17.08.01- H19.07.31
和田健夫	北海道	北海道地方独立行政法人評価委員会	委員	H18.08.11 H20.08.10
渡辺和夫	小樽市	上下水道事業経営懇話会	委員	H16.04.01- H20.03.31

Ⅴ．小樽商科大学 学生研究奨励事業第1回「学生論文賞」について

学生研究奨励事業「学生論文賞」の創設について

ＣＢＣが前身の経済研究所時代より主催して行ってきた「学生懸賞論文」は近年応募数が減少傾向にあり，また応募者の所属学科(コース)にも偏りが見られるようになってきました。このような状況に対して「学生懸賞論文」の全学的な認知度が決して高いものではなくなってきているのではないか，という問題意識が，関係教員の間に共有されるようになりました。そこで，自主的な学習意欲の向上を図り，学生の認知度の向上と審査の公平性･透明性の向上を図ることを目的に，教育開発センターとの共催により「学生懸賞論文」を“学生研究奨励事業「学生論文賞」”として実施することにしました。

教育開発センターと共催することによって本事業が本学の教育の一翼を担うものであることを広く周知させることができます。また，より多くの教員が審査に参加する契機にもなります。

本事業の審査方式は 2 段階方式を採用しており，1 次審査はプレゼンテーション方式によるもので，審査員全員による公開方式の審査を行いました。本審査では会場を公開し，応募者以外の学生が参観可能としました。研究内容の発表機会を設けることで，彼等の学習･研究への動機付けに繋がることが期待できます。また 1 次審査における優れたプレゼンテーションには「ベストプレゼン賞」が与えられています。そして 2 次審査は 1 次審査を通過した論文について審査員 2 名によって行なわれました。「学生懸賞論文」と同様の審査スタイルである 2 次審査に異なるスタイルの 1 次審査を組み合わせることで，審査基準の平準化を目指しました。

また「学生論文賞」では，1 次審査･2 次審査の結果･講評を，応募者それぞれに返却しています。評価のポイントが応募者に開示されることで，研究水準の向上が期待できます。「学生論文賞」では表彰の在り方にも変更を行なっています。「学生懸賞論文」では表彰はＣＢＣ内においてＣＢＣセンター長によって行われていましたが，本事業では学生表彰の一環として学位記授与式内において学長より表彰されることになりました。

このような変更を経て昨年 10 月 23 日から 27 日の間をエントリー期間として募集を行ったところ学部大学院生あわせて 37 編の応募がありました。11 月 7 日から 9 日にかけて 1 次審査のプレゼンテーションを行いこれを通過した 29 編の論文について 12 月中旬から 1 月 19 日までの期間で 2 次審査を行い，大賞 1 編，優秀賞 2 編，佳作 4 編，奨励賞 17 編を決定しました。3 月 19 日の学位記授与式において，大賞受賞者が代表して学長より表彰されました。

小樽商科大学 学生研究奨励事業第１回「学生論文賞」結果

≪学部生部門≫

賞	氏名	テーマ
大賞	井原香織	零細小売商のエスノグラフィー —鮮魚店の存立基盤に関する考察—
優秀賞	前田容子	女性労働者に対する意識と制度の変化 ～ダイバーシティ・マネジメントという考え～
	中 祐規 松本美紗	国債ポートフォリオのリスク管理
佳作	小川 亮	想像力を持った CSR 人材の必要性
	小林沙織 上田真友子 児玉 結 谷口亮介	4 つの立場から見る観光問題の本質 ～小樽市の事例をもとに～
	阿部さとみ	オーケストラに学ぶプロフェッショナル組織におけるリーダーシップ
奨励賞	高山博貴	大学における e ラーニングシステム構築の可能性
	吉田友弘	動的筋力トレーニングにおけるレペティション法の改善
	佐藤正典 杉山友紀 松田 大	仮説検証型発注システムの弱点 —セブンイレブンを事例として—
	森 浩輝 大瀬麻巴 花田優貴 平岡 卓	踊る報酬 ～人はなぜ YOSAKOI ソーラン祭りで踊るのか～
	屋敷美奈 坂井香織 渡辺彩織	グッズ販売事業を素材とした広報活動の重要性
	萱森美緒 折田寛枝 今 亮人 土谷咲恵	ポイントカード戦略による大通駅エリアの活性化
	高田禎久	ロングテール分析とその活用
	中島 啓 菅野有記	エキゾチックオプション組み込み債権の収益性
	藤原佑輔	刑法における公務の保護
	岸 藍子	緑陰の形成に着目した街路樹配置に関する研究
	北村知子 浅野啓太 庄野幹也(堀田久実子	地球に優しい 3R ～資源枯渇への対策とその心構え～
	山本あみ	携帯電話における効率的な文字入力方式の検討

奨励賞	筒井由香理	携帯電話を利用した ATM 利用時間の短縮
	小路奈美絵	サービス業におけるマニュアル経営の実態　～定食屋チェーン A 店の事例～
	山本絢子 佐々木俊介 中西未来	福住地区高齢化の理由とこれからのまちづくり　～老年者にとっての福住の魅力とは～
	小笠原義人 鈴木悠斗(羽田野敬一 金　台姫	バイオエタノールの可能性と経済効果
	林　襟奈 太田晋平, 笹原俊介 宮下芙弥江	ウイングベイ再・再建！！

≪院生部門≫

賞	氏名	テーマ
大賞	（該当者なし）	
優秀賞	（該当者なし）	
佳作	大友奈奈子	Effective English Teaching in Elementary Schools
奨励賞	（該当者なし）	

副賞　大賞　10 万円　優秀賞　5 万円　佳作　3 万円　奨励賞　1 万円

ベスト・プレゼン賞　図書カード 1 万円分

萱森美緒
折田寛枝
今　亮人
土谷咲恵

ポイントカード戦略による大通駅エリアの活性化

通称賞　図書カード 5 千円分

道野真弘（教員）　　通称「ヘルメス奨励賞」

総　評

「学生論文賞」の第 1 回目である今年度は，学部生部門に 35 編，院生部門に 2 編の，合計 37 編の応募がありました。昨年と比べて倍近い応募となっております。またここ数年の応募状況と比較しても，多数の応募がありました。学部生部門での応募者は，3･4 年生のみでした。所属に関しては，商学科が過半数を占めていますが，経済学科，企業法学科，社会情報学科からの応募も増加しています。研究テーマとしては文学･言語も含まれ，本学らしく多岐に渡っているといえます。

二段階の厳正な審査の結果，院生部門では，佳作 1 編が入賞し，学生部門では，大賞 1 編，優秀賞 2 編，佳作 3 編，奨励賞 17 編の入賞となりました。

審査が二段階方式になった結果，第 2 次審査の対象となった論文は，形式面での不備を指摘されるものが殆んどありませんでした。第 1 次審査が行なわれたことも，論文水準の向上に繋がったと考えられます。

上位入賞者の論文は，特に第 2 次審査において査読担当者から高評価を得ている傾向があります。奨励賞の論文に比べて，方法論の妥当性，論理構成の確実さなどの点で優れていたようです。奨励賞の該当論文は，先行研究のサーベイ不足，論理構成の弱さが指摘されているものがあります。また幾つかの論文では，ユニークな着眼点を示したものの検証が十分でないため，思いつきに留まる･客観性に欠けている等の指摘がありました。高い水準を目指す学生諸君には，応募にあたり，論文作成の基本的な作法のほか，テーマのユニークさを客観的･一般的な水準に高めるための「学術的な裏づけ」も修得されることを望みます。

また，「学生論文賞」では二段階の審査のどちらにおいても，応募者への評価のフィードバックが行なわれています。これは，論文執筆のノウハウや研究能力のレベルアップに寄与するものですので，是非 真摯に受け止め今後に役立てて欲しいと思います。

尚，最後になりましたが，本事業の実施に対しまして，株式会社 北洋銀行様より多大なるご支援を頂戴いたしました。記して感謝の意を表します。

大賞　井原香織「零細小売商のエスノグラフィー　－鮮魚店の存立基盤に関する考察－」

商店街や街の零細小売店の衰退が話題になって久しい。それだけに再生への対応策についての研究や議論も数多く存在している。本論文も零細小売商問題という古くて新しい問題に焦点を当て，従来の研究では希薄であったミクロな視点から鮮魚店のエスノグラフィーを記述している。研究課題として取り上げられた零細小売商の存在意義を模索するために，従来の「生業性」，「家族従業」，「地域密着型小売店の多重ネットワーク構

造」などの諸概念を再検討し，それが現実の零細小売店を分析するのに妥当な枠組みであるかどうかが明らかにされている。

先行研究の単なる文献レビューや分析だけでなく，それを踏まえた研究課題の設定，エスノグラフィーによる「分厚い記述」，議論の展開プロセスはオリジナリティにあふれ，多くの理論的インプリケーションを引き出すことができる。とくに「外側」から安易に評価してしまいがちな零細小売商の日常的な活動をエスノグラフィーを通じて「内側」から捉えようとした研究アプローチはきわめて興味深い。また，零細小売商，とりわけ鮮魚店の存立基盤の一つとして，「小売技術」という概念に着目したことが本論文の大きな特徴であっただろう。これらの点において本論文は学術論文として高く評価される。

もっとも，本論文で強調されている「小売技術」の概念が「生業性」や「家族従業」の概念に代わる零細小売商の存在意義を解明するための新しい分析枠組みにするのであれば，高い「小売技術」を持つ鮮魚業種店は同様な商品を取り扱っている他の小売業態より競争上優位であるかどうか，また「鮮魚店という業種特有の技術」とは何かについて，さらなる研究の進化が望まれるだろう。

優秀賞　前田容子「女性労働者に対する意識と制度の変化
～ダイバーシティ･マネジメントという考え方～」

筆者の問題意識は，1986 年に施行された男女雇用機会均等法が女性労働者の働き方にどのような変化をもたらしたのかということにある。特に育児休業制度の導入状況，女性労働者に対する社会的意識の変化に注目する。そして，法制定の背景や法改正の経緯を調べ，さらに女性労働の現実に肉薄する。そのために，学生に対するインタビューや企業の具体的なケースを分析する。その結果，問題解決のための有効な考え方として「ダイバーシティ･マネジメント」という考え方を提言する。それはある種の経営戦略で，従業員の性別・年齢・国籍などの違いや発想・価値の相違を認め，さらにそれを生かすことでビジネス環境の変化にすばやく適応し，利益の拡大につなげるという戦略的発想である。この問題の解決のためには企業がこのような経営戦略として取組むことが重要であることを強調している。

この論文は，女性労働者の働き方という，今日の日本にとって非常に重要なテーマを取り上げており，また論文形式も整ったものとなっている。また，具体的な企業のケースを詳しく分析し，さらに学生に対するインタビュー調査を試みている点などは，論文の説得力を大いに高めている。論理構成の面でも着実に論理を積み上げている点は高く評価しうる。

他方，改善すべき点ないし今後の課題を挙げるとすれば，以下の点を指摘することが

できる。

（1）学生に対するインタビュー調査に関して，調査対象数・実施方法等を充実させ，統計的処理を行えばさらに説得力を増すであろう。

（2）「ダイバーシティ･マネジメント」という人事･労務経営戦略において女性労働を活用することを強調しているが，企業のその他の経営戦略例えば財務的経営戦略との関連さらには企業目的との関連において詳細な検討が加えられれば，より現実的な議論になるであろう。

優秀賞　中　祐規　松本美紗「国債ポートフォリオのリスク管理」

本論文のテーマは「国債ポートフォリオの金利リスクを，デリバティブ取引によってヘッジする手法について」検討するということにある。具体的には，金利上昇期待の局面で，保有国債の価格下落リスクをヘッジするために国債先物や円金利スワップ先物取引を用い，他方，同じく金利上昇による逆鞘（預金金利上昇と国債の固定金利）のリスクを金利スワップ，ユーロ円３ヵ月金利先物取引でヘッジするという２つのケースを検討している。

論文では，このようなデリバティブによるヘッジの仕組みや諸概念（ポートフォリオのデュレーション等）を整理・紹介してうえで，ヘッジの実際例として稚内信金の国債ポートフォリオ（推計）を取りあげ検討を進めている。

北海道の信金は一般に預貸率が低く，債券保有がきわめて高いという状況にあって，その典型例としての稚内信金に着目し，デリバティブを用いて上記２つの金利リスクをヘッジしたときどのような効果が上がるか，という研究である。学んだ理論を活かし，応用しようとする現実感覚は十分評価に値する。また，実際に利用できるデータをＢ/Ｓ等で追求しようとする姿勢も評価できる。全体的に，デリバティブの基本的理解の上に立って，それの実践的応用を試みるという研究であり，卒論に見られがちな「習作」の枠を超えようとする意欲が感じられた。

他方，学術論文として改善が望まれる点は，①全体的に論述がやや“舌足らず”の感があり，もう少し丁寧な説明が欲しかったこと，②「注」のつけ方など改善の必要があること，③稚内信金のＢ/Ｓから必要な計数を取り出して表で示すこと，等である。

佳作　小川　亮「想像力を持った CSR 人材の必要性」

本研究の始まりは「何のために働くか」という疑問であり，筆者が就こうとしている医薬情報担当者という仕事の先輩が，直接には接しないのに，患者のためという思いを

持って働く中に，生き甲斐を見いだしていることが，企業としての CSR につながっているのではないか，と考えたことである。そして CSR を果たすのは会社というより，従業員からではないかとの仮説を立てる。

しからばそのような人材はどのように育つのか。筆者はまず 20 世紀前半の人である C・バーナードによって，働き甲斐の必要性について考察する。バーナードは会社から従業員へと分析して，働き甲斐の動機付けの誘因として，まず金銭等の物質，次いで支配的地位をあげる。

続いて筆者は従業員に戻って，「何を想像して働くか」が大切だとする。「想像」を「時間軸」「目的軸」「判断軸」の切り口で考えている。ここでは各々がどういうことなのかの分析を，もう少し詳しくしてほしかった。そうすれば「これらの 3 つの軸を満たす想像力が働くとき，それによって働き甲斐を感じて良い仕事を行い，結果的に CSR を果たすことになる」という，仮説に沿った議論がスムーズに入ってきたであろう。

次に筆者はジョンソン・エンド・ジョンソンの例から，トップのリーダーシップが必要と考えた。そして「企業は日々の事業活動において，従業員に社会のため幸せのためを想い働き甲斐を感じて仕事が出来る環境を用意すべきなのである。CSR はその先で果たされるものである」と述べる。

CSR は会社ではなく「従業員から」という発想はユニークだが，論理の流れには些かもどかしさがある。思うに論点は企業が十分な動機，働き甲斐を提供し，従業員が想像力を持って働けば，結果として会社は CSR を果たす，ということであろう。その相互作用のプロセス，関係をもう少し深く関連づけて考察すればさらに良いものになった。

佳作　小林沙織　上田真友子　児玉　結　谷口亮介「4 つの立場から見る観光問題の本質　～小樽市の事例をもとに～」

現在，日本の地方都市の多くが財政の悪化に苦しんでおり，地元経済活性化への様々な取り組みが全国的に試みられている。有力な地場産業を抱える地方では，当該産業の推進に官民あげて取り組んでいる。北海道は観光資源が豊かであり，観光を主要な産業の一つに位置づけ，様々な仕掛け，支援制度などを通じて経済の活性化に取り組んでいる。

「小樽」は観光が主要な産業の一つではあるが，それが必ずしも小樽市の経済活性化に大きく貢献していないのではないか。それは何故か。その原因を分析し，解決への提言を試みる。これはその様な問題意識から書かれた，大変興味深い論文である。

小樽における観光振興の問題を，行政・商業者・地域住民の対立関係を中心に分析した事は新鮮な切り口からのアプローチであり，鋭い視点である。ただ，小樽が港湾都市であることを考えると，観光産業と港湾関連業者との利害対立にも踏み込んで分析が行

われたならば更に深みのある論文になったと思われる。

本件は，文献調査に留まらず，実際にアンケートや取材を駆使して本件の主張を立証しており評価できる。ただ，サンプル数が少ないことや定量的な分析をしていない点などに課題を残している。

タイトルは「(一般的な都市に共通する）観光問題の本質」とも取れるが，本論文は「小樽における観光振興の諸問題」を論じており，そのようなタイトルにすべきであった。

学生論文に要求するのは過酷とも言えるが，残念ながら本論分では最終的な解決策が具体的に提示されてはいない。

本問題は観光都市「小樽」に留まらず，日本全国の地方に共通するものであり，今後も更なる研究の継続が望まれる。

佳作　阿部さとみ「オーケストラに学ぶプロフェッショナル組織におけるリーダーシップ」

オーケストラを素材にして，「プロフェッショナル組織におけるリーダーシップ」について考察した本論文は，オリジナリティーや現代性の面で高く評価できる論文である。

ただ，内容的にオーケストラ論に偏りがあり，組織自体を論じている部分が少ない。指揮者の分析によって得られた知見を，プロフェッショナル組織にどのように取り入れていくかの考察が十分でない。

既存の組織論との関連で言えば，自律型(自己管理型)チームやサーバント・リーダーなどに触れて，考察をしてもよかったのではないか。さらに付け加えれば，リーダーシップ論の研究の流れとして，すべての場面で当てはまる唯一絶対のリーダーシップのタイプはないという見解があり，「プロフェッショナル組織におけるリーダーシップ」も一つのタイプを良しとするのは妥当性が低いかもしれない。たとえば，研究開発のプロフェッショナル組織では X のようなリーダーシップが望ましいとしても，デザインのプロフェッショナル組織では Y のようなリーダーシップが望ましいということも十分考えられる。

方法論としては，指揮者に対する評価が若干不明瞭で，それらしき出典を見ても，それが客観性を保証するかどうか疑問が湧く。どのような手法で，またどのデータを用いて指揮者が評価されたのか，もっと明確に記述すべきではないだろうか。

構成面では，今ひとつ本論と結論が結びついていないように見える。上でも述べたように，オーケストラにおける指揮者のリーダーシップについて得られた知見が，プロフェッショナル組織におけるそれと，上手く照応していないのだ。

とはいうものの，あまり開拓されていない「プロフェッショナル組織におけるリーダ

ーシップ」という難しい領域に取り組み，一定の成果をあげたことは評価できる。

佳作（院生部門）　大友奈奈子「Effective English Teaching in Elementary Schools」

当該論文は，初等教育における効果的な教育方法の提案を行なうというものである。非常に今日的なトピックであり，社会的に貢献可能な内容と言える。授業計画自体も，事例を取り込むなどして非常に丁寧に準備されており，現場教育のニーズを伝えようとする熱意が感じられる。また，イギリスにおける教育と政府の政策についての情報が示され，今後日本の小学校での英語教育を実践するにあたっての有益な示唆が含まれている。

論理構造での不統一が一部あるが，結論部分の議論は非常に明確であり，評価できる。また全体的にみて，筆者の英語力も評価できる。

但し，その成果を研究論文として扱うに当たっては，課題も残る。

例えば，研究アプローチに関して，教育理論(TPA，natural approach, communicative language teaching の 3 つ)については，それぞれに丁寧に説明があるものの，それ以外の基礎理論についての言及は必ずしも十分とはいえない。そして，本論分で提案された教授法の独自性･有効性を明らかにするために，比較対象となる他の教授法の特色や普及度･評価などについても客観的なデータが必要であろう。全体として，提案される授業方法の丁寧さに比して，修士論文を作成するための研究計画については，詳細に述べることが必要であろう。

学位記授与式内で学長より表彰を受ける大賞受賞者

学長を囲んで

Ⅶ. 活 動 日 誌

4月10日(月)	主任会議
4月27日(木)	運営委員会
5月 9日(火)	主任会議
5月10日(水)	札幌医大定期情報交換会（於：札幌サテライト）
5月15日(月)	経済資料協議会理事会・組織改革委員会　今野助手出席（於：中央大学後楽園キャンパス）
5月18日(木)	小樽観光大学校運営委員会　海老名センター長出席（於：小樽商工会議所）
5月19日(金)	提案公募型事業審査委員会　海老名センター長出席（於：北海道経済産業局）
5月22日(月)	運営委員会
5月29日(月)	さっぽろベンチャー支援協議会　海老名センター長出席（於：札幌すみれホテル）
5月24日(水)	運営委員会（持ち回り）
6月 2日(金)	北海道東海大学打合せ　海老名センター長、一瀬産学官連携コーディネーター出席（於：北海道東海大学旭川校）
6月 5日(月)	主任会議
6月 8日(木)	経済資料協議会理事会　今野助手出席（於：中央大学多摩キャンパス）
6月 8日(木)-9日(金)	第61回経済資料協議会総会・研究会　今野助手出席（於：中央大学多摩キャンパス）
6月10日(土)-11(日)	第5回産学官連携推進会議　海老名センター長、大津副センター長、高玉研究協力係長出席(於：国立京都国際会館)
6月13日(火)	小樽観光大学校運営委員会　海老名センター長出席（於：小樽商工会議所）
6月29日(木)	運営委員会
7月	平成17年度研究活動報告書刊行
7月 3日(月)	主任会議
7月 6日(木)	主任会議
7月 6日(水)	運営委員会（持ち回り）
7月12日(水)	小樽観光大学校運営委員会　海老名センター長出席（於：小樽商工会議所）
7月15日(土)	北海道東海大学打合せ　海老名センター長、一瀬産学官連携コーディネーター出席（於：札幌サテライト）
7月24日(月)	運営委員会
7月28日(金)	さっぽろベンチャー支援事業審査会　海老名センター長出席（於：札幌産業振興センター）
8月 3日(木)	主任会議
8月	ビジネス創造センターについての札幌商工会議所会員企業向けアンケート実施
9月 5日(火)－ 6日(水)	第19回国立大学法人共同研究センター専任教員会議　海老名センター長、大津副センター長、一瀬産学官連携コーディネーター出席（於：山口大学）
9月14日(木)	第2回３大学地域共同センター定期情報交換会　海老名センター長、大津副センター長、高玉研究協力係長出席（於：福島大学）

9月12日(木)	運営委員会（持ち回り）
9月30日(金)	小樽商科大学地域活性化セミナー「ダイガクも意外と役に立つ」開催（於：紀伊國屋書店札幌本店／札幌サテライト）
10月12日(木)-13日(金)	第18回国立大学法人地域共同研究センター長会議　海老名センター長、一瀬産学官連携コーディネーター出席(於：岡山大学)
10月16日(月)	主任会議
10月17日(火)	小樽観光大学校運営委員会　海老名センター長出席（於：小樽商工会議所）
10月27日(金)	小樽商科大学一日教授会　海老名センター長出席（於：小樽グランドホテル）
10月30日(月)	運営委員会
10月30日(月)	JAPANブランド打合せ　海老名センター長出席（於：小樽商工会議所）
11月	CBCニューズレター　Vol.7 No.1刊行
11月 1日(水)	運営委員会（持ち回り）
11月 7日(火) - 9日(木)	学生論文賞第１次審査（プレゼンテーション）
11月 9日(木) -10日(金)	イノベーションフェアin北海道2006　出展(於：アクセスサッポロ)
11月10日(金) -11日(土)	全国大学発ベンチャー北海道フォーラム　海老名センター長出席（於：京王プラザホテル札幌／北海道大学)
11月13日(月)	主任会議
11月20日(月)	第6回産学官連携サミット　海老名センター長、奥田情報資料部主任出席(於：赤坂プリンスホテル)
11月20日(月),24日(金),28日(火),29日(水),30日(木)	筑波大学ビジネス科学研究科講義「トップレクチャー」参加
11月22日(水)	北海道経済部労働局労働審議会　海老名センター長出席（於：札幌・かでる２・７）
11月27日(月)	学生論文賞反省会
11月27日(月)	運営委員会
11月27日(月) -30日(木)	学生論文賞第2次審査（論文）受付
11月28日(火)	JAPANブランド打合せ　海老名センター長出席（於：小樽商工会議所）
11月30日(木) -12月6日(水)	JAPANブランド「小樽ガラスの世界展」等　海老名センター長参加（於：台湾・太平洋そごう他）
12月 4日(月)	経済資料協議会理事会・組織改革委員会　今野助手出席（於：中央大学後楽園キャンパス)
12月11日(月)	主任会議
12月14日(水)	北海道経済部労働局労働審議会　海老名センター長出席（於：札幌・かでる２・７）
12月14日(水)	北海道東海大学打合せ　海老名センター長、一瀬産学官連携コーディネーター出席（於：札幌サテライト）
12月18日(月),20日(水),21日(木)	JAPANブランド「小樽ガラスの世界展」（台湾）報告会　海老名センター長出席（於：小樽商工会議所）
12月22日(水)	北のブランド選考委員会　海老名センター長出席（於：札幌商工会議所）
12月25日(月)	運営委員会

1月15日(月)	主任会議
1月16日(火)	東アジア経済研究会　海老名センター長出席（於：小樽市役所）
1月16日(火)	北海道東海大学打合せ　海老名センター長、奥田情報資料部主任、一瀬産学官連携コーディネーター出席（於：札幌サテライト）
1月18日(木)	学生論文賞審査部会
1月23日(火)	札幌医科大学打合せ　海老名センター長、大津副センター長、奥田情報資料部主任出席
1月24日(水)	年度計画取り纏め会議
1月29日(月)	運営委員会
2月 2日(金)	苫小牧工業高等専門学校シンポジウム　海老名センター長出席（於：ホテルニュー王子）
2月 5日(月)	主任会議
2月 5日(月)	学生論文賞審査入賞者向け説明会
2月 9日(金)	小樽観光大学校運営委員会　海老名センター長出席（於：小樽商工会議所）
2月12日(月)	「小樽ガラスの世界展」オープニングセレモニー　海老名センター長出席（於：運河プラザ）
2月13日(火)	JAPANブランド育成支援事業実行委員会　海老名センター長出席（於：小樽商工会議所）
2月26日(月)	運営委員会（持ち回り）
2月26日(月)	北海道産学官連携推進フォーラム出展　海老名センター長、今野助手参加（於：ポールスター札幌）
2月27日(火)	小樽まち育て運営協議会　海老名センター長出席（於：小樽市役所）
2月27日(火)	小樽ロータリークラブ　海老名センター長講演（於：小樽グランドホテル）
2月28日(水)	学生論文賞北洋銀行報告　海老名センター長、前田研究部主任出席（於：北洋銀行札幌本店）
3月	CBCニューズレター　Vol.7 No.2刊行
3月 2日(金)	学外協力スタッフ会議（於：札幌サテライト）
3月 2日(金)	平成18年度産学連携研究成果報告会(於：札幌サテライト)
3月 6日(月)	主任会議
3月 7日(水)	運営委員会（持ち回り）
3月 8日(木)	さっぽろ起業家総合支援協議会　海老名センター長出席（於：札幌市役所）
3月 8日(木)	さっぽろベンチャー支援事業検討会　海老名センター長出席（於：札幌産業振興センター）
3月 8日(木)	東アジアマーケットリサーチ事業実行委員会　海老名センター長出席（於：政寿司）
3月12日(月)	苫小牧工業高等専門学校評価委員会　海老名センター長出席（於：ホテルニュー王子）
3月13日(火)	小樽観光大学校運営委員会　海老名センター長出席（於：小樽商工会議所）
3月14日(水)	ノーステック企画委員会　海老名センター長出席（於：コラボ北海道）
3月18日(日) -22日(木)	東アジアマーケットリサーチ事業（台湾）　海老名センター長参加
3月19日(月)	学生論文賞表彰式　大津副センター長、前田研究部主任出席（於：学長室）

3月26日(月)	運営委員会
3月30日(金)	学生論文賞反省会

Ⅶ. ビジネス創造センター関連新聞・雑誌記事

平成 18 年度中に新聞・雑誌等に掲載された当センターに関連する記事の一覧です。
見出し末尾に＊のある記事はコピーを掲載しております。
＊コピーの掲載は冊子体のみで、Ｗｅｂではしておりません。

見　出　し　[ ]内は備考	紙名／誌名	日付(頁)／号
「小樽」を学び伝えよう：産官学で「観光大学校」発足 ［運営委員：海老名センター長、松本フェロー］＊	読売新聞	5/22(北海道)
製品の使い勝手分析ソフト開発：小樽商大研究者　＊	北海道新聞	6/23(11)
国の支援で異業種連携を：23 社加盟、小樽の交流会　新規事業目指し勉強会[吉本学外協力スタッフ]	北海道新聞	7/4(小樽・後志)
小樽ガラス　情報発信へ工房団結：　業界団体設立若手育成に力（ブランドを育む）［副委員長：海老名センター長］＊	日本経済新聞	7/11(北海道)
北東アジアの動向テーマにセミナー：26 日小樽商大で ［海老名センター長参加］	北海道新聞	8/17(25)
小樽商科大学地域活性化セミナー「ダイガクも意外と役に立つ－小樽の工芸作家と語る小樽商大の活用法」（催し）　＊	北海道新聞	9/26(11)
産学の溝埋めるは私：北大リエゾン部長荒磯恒久氏（民が担う新開拓時代　第３部興す（１））［瀬戸フェロー］＊	日本経済新聞	10/19(北海道)
経験者束ね企業支援：ヒューマンキャピタルマネジメント社長土井尚人氏（民が担う新開拓時代　第３部興す（２））［学外協力スタッフ］	日本経済新聞	10/20(北海道)
来年１月のおたる案内人検定　公式テキストを作製：歴史、自然など 8 部構成 ［運営委員：海老名センター長、松本フェロー］＊	北海道新聞	11/2(28 小樽・後志)
製品の使い勝手検証：札幌に産学で研究施設　＊	日経産業新聞	11/10(25)
帯広畜産・室蘭工大　札幌医科大が連携：共同研究や単位互換	日経産業新聞	11/29(13)
小樽ガラス売り込め：きょうから台湾で展示会　昨年より 55 点増の 226 点［副委員長：海老名センター長］＊	北海道新聞	12/1(32　小樽・後志)
ロボット製作や酒造り講座も　科学もっと身近に：10 日からサイエンスカフェ　＊	北海道新聞	12/7(29 小樽・後志)
「北の起業家」優秀賞に 2 社：札商、大賞該当なし ［委員：海老名センター長、委員長：松本フェロー］	北海道新聞	12/9(11)
OTARU ガラスのブランド化へ：この夏、北の国が華やいだ（北海道メール）　［海老名副センター長寄稿］＊	週刊世界と日本	12/11(7)

科学談義コーヒー片手に：ビズ・カフェ小樽で開講　講師に企業経営者　＊	北海道新聞	12/11 夕(11)
青緑色好感触：台湾の小樽ガラス展 2 年目の成果　小樽商大・海老名誠教授［海老名センター長寄稿］＊	北海道新聞	12/15(27 小樽・後志)
公式教科書誤り 36 カ所：「おたる案内人」検定年明けに改訂版［運営委員：海老名センター長、松本フェロー］	北海道新聞	12/15(27 小樽・後志)
次代への発展を目指して：構造改革の公立本格化ベンチャーが地域の活力に［コメント：瀬戸フェロー］＊	日本経済新聞	1/9(20)
「高貴」浮き玉の青緑好評：台湾で「小樽ガラス展」［副委員長：海老名センター長］＊	北海道新聞	1/23(26 小樽・後志)
“茶話講座”次はロボット：4 種類登場　小樽で 11 日	北海道新聞	1/23(24 小樽・後志)
ＩＴ産業振興へ衣の財団と連携：知的クラスター本部　＊［本部長：下川フェロー］	北海道新聞	1/27(11)
台湾にて JAPAN ブランド「小樽ガラス展」を開催［副委員長：海老名センター長］＊	小樽商工会議所会報 Sea Port Waltz	2007 年 1 月号
ミクロの世界に驚き　北大とインターネット授業［遠隔教育研究会］＊	道北日報	2/6
キャンパスをゆく　道教大札幌サテライト［コメント：海老名センター長］＊	北海道新聞	2/9(27)
リアル！遠隔授業体験　小樽商大ビジネス創造センター剣淵小で子ども科学教室　［遠隔教育研究会］＊	北海道通信	2/9
鮮明映像見ながら授業　剣淵小 4 年生が植物学ぶ［遠隔教育研究会］＊	北都新聞	2/12
祭り、論文・・・学内リード（100 年へ小樽商大はいま　第 1 部　女子学生　①1000 人のきらめき）＊	北海道新聞	2/20(27 小樽・後志)
産学連携研究成果報告会（催し）＊	北海道新聞	2/21(9)
産学連携の研究発表　小樽商大 CBC 札幌で成果報告会＊	北海道新聞	3/6(28 小樽・後志)
産学連携へ新組織　道内ＩＴ経営者ら国の事業継承＊［代表理事：下川フェロー］	日本経済新聞	3/24(北海道面)
JAPAN ブランド育成支援事業「小樽ガラスの世界」を開催［副委員長：海老名センター長］＊	小樽商工会議所会報 Sea Port Waltz	2007 年 3 月号

平成１８年度　ビジネス創造センター研究活動報告書

発行日　　平成１９年７月

国立大法人
編集・発行　小樽商科大学ビジネス創造センター研究部
〒047-8501　小樽市緑３丁目５番２１号
Tel 0134-27-5290　Fax 0134-27-5293
URL　http://www.otaru-uc.ac.jp/cbc
E-mail cbcjimu@office.otaru-uc.ac.jp